

早明浦ダム再生事業の早期実施

【現状と課題】

- ◆管理開始以降40年間で、計画流入量を超える洪水が4回発生し、ダム下流では浸水被害が発生しており、被害軽減のための対策が必要
- ◆上流域からの土砂流入により、ダム下流では、依然として長期にわたる濁水が発生しており、長期化を抑制する対策が必要

既存ダムを有効活用する早明浦ダム再生事業

洪水吐きの新設等を行うことで

- 洪水対策
■濁水対策
- 洪水調節容量を増大させ、ダム下流の浸水被害を軽減
- 濁水の早期排出が可能となり、濁水の長期化を抑制

現状の設備での放流可能範囲

- ①現状より低い位置から放流
- ②洪水調節容量を増大
- ③下流浸水被害の軽減

現状の洪水調節容量 (9,000万m³)

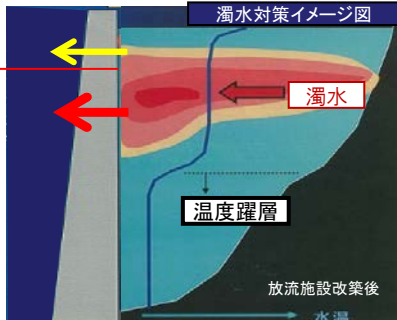
洪水調節容量の増大 (1,700万m³)

ダム放流施設の改築により洪水調節容量を増大 (9,000万m³→10,700万m³)

現状の設備での放流可能範囲

- ①現状より低い位置から放流
- ②濁水の早期排出が可能
- ③濁水の長期化を抑制

濁水対策イメージ図



※底水は温度が低く密度が高い為、濁水は温度が急激に下がる箇所(温度躍層)の上に滞留する傾向がある。

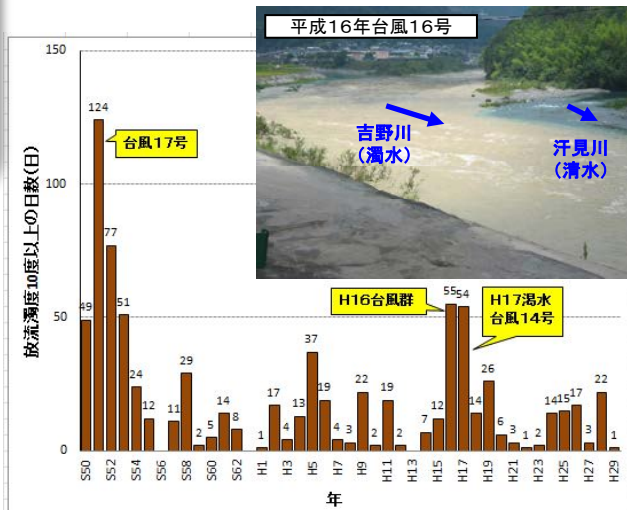
新規事業採択に向け手続きが開始された吉野川水系河川整備計画(変更原案)に記載された早明浦ダム再生事業の内容

- 現況の洪水調節容量を増大させるため、貯水容量の配分変更を行う(9,000万m³→10,700万m³に1,700万m³増大)
- 洪水時の放流能力増強のため、洪水吐きの新設等を行う

※これらの実施は、嶺北地域の課題解決に大きな効果を発現

- ダム下流部の浸水被害の軽減
- 濁水の長期化を抑制する効果が期待

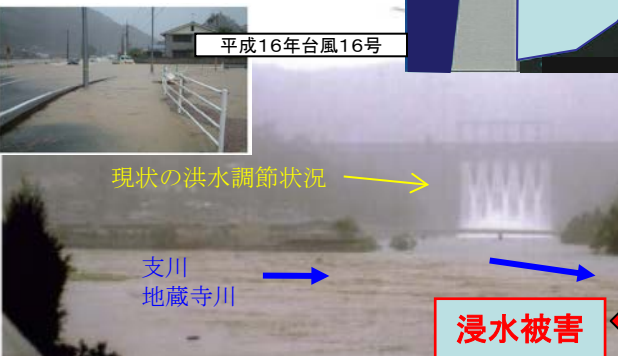
濁水の長期化



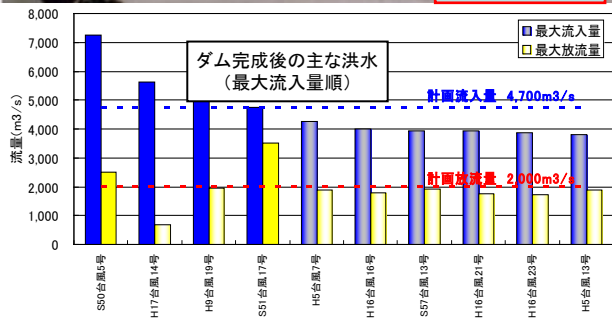
濁水への諸対策により一定改善は進んだが、依然として濁水の長期化が発生

高知県の取り組み

- 吉野川本川の水位上昇の影響への対策
- 平成25年から事業着手



浸水被害



管理開始以降の40年間で、計画最大流入量を超える洪水が4回発生(計画では80年に1回)し、ダム下流で浸水被害が発生

政策提言

平成30年4月1日から早明浦ダム再生事業に着手して頂いたこと大変感謝しております。早明浦ダム下流における浸水被害と濁水の長期化を軽減させるため、事業の早期完了に向け、着実な事業投資をしていただくよう提言します。地元調整にあたっては(独)水資源機構と共に進んでまいります。